山内太地

「されど学歴」

『セカンドステージ大学』で団塊世代が友達作り

50歳を過ぎてから〝学生生活〟を楽しめる立教大学

立教大学は、50歳以上の社会人教育の場として「立教セカンドステージ大学」という公開講座を実施している。書類選考と面接だけで入学できる1年間の課程で、希望者は2年目の専攻科に進める。受講料は年間30万円。このほかに本科のみ登録料10万円がかかる。定員は本科70人、専攻科30人。授業を担当するのは、立教大学の教員が中心で、授業のレベルは大学と変わらない。

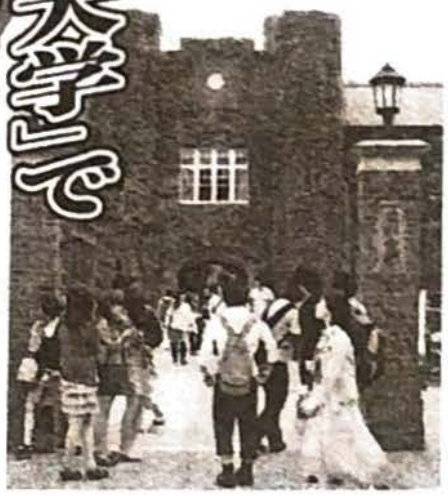
開講科目は宗教、芸術といった教養系から、コミュニティービジネス、ボランティア活動、老後に関するものなどがある。立教大学の科目も一部履修できる。

他大学の公開講座との大きな違いは、十数人ごとのゼミが必修の点だ。平均年齢62歳の学生たちがゼミに所属し、最後に1万2000字の修了報告書を提出する。ゼミでは合宿やフィールドワークもあり、ゼミ長やクリスマスパーティー委員などの係も決めて、たくさんの行事をする。

まちおこしや読書会、NGO/NPO活動、ワイン文化研究などをする、「登録プロジェクト」という一種のサークル活動もある。この活動は修了後も続けることができ、セカンドステージ大学を終えてからの第2の人生にやりがいを与えるものにもなっている。社会貢献の場を提供する取り組みでもある。毎年、年度末になると、「まだ辞めたくない」「孤独が怖い」という学生の声があがるという。

大きな特徴は、やはり仲間ができること。他大学やカルチャーセンターの公開講座は、一方的に講師の講義を聴くだけのものが多い。ゼミや合宿のある立教セカンドステージ大学では、学生はみな顔見知りで、「60歳、70歳になって、新たに一生の友人ができた」と感動する人もいる。学生と教員、あるいは学生同士の親密な交流が、質の高い教育の場として、立教大学の社会貢献になっている。

社会人の大学・大学院に対する要求の中心は、実は「人との出会い」である。仕事以外の人との付き合い、あるいは定年後の生きがい、やりがいを渇望する社会人、シニアの声に対し、大学がそうした場を用意している取り組みとして注目できるものだ。



やまうち・たいじ　1978年岐阜県出身。大学研究家。東洋大社会学部卒。国内の4年制大学783校（2012年度現在）をすべて訪問、取材。『時間と学費をムダにしない大学選び最辛ガイド2014』（中央公論新社）など著書多数。ツイッター@yamauchitaiji

井沢元彦

激闘の日本史

幕末維新列伝編

～戊辰戦争の人々～

悪くないのに、あるいは主犯でま

いうちりょうろう。後二郎が

◁11▷

いご昭二

せんが
いう。
さで
く、こ
皇の為
死んで
いと思
はず